

令和4年度 園の自己評価

|       |                                                                                                                                                        | 評価<br>(1～5) |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 教育・保育 | 園児一人ひとりが安心感と信頼感をもって活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにする                                                                                                           | 5           |
|       | →3歳未満児クラスは担当制をとることで、一人ひとりと深く関わり、園児との信頼関係を築くことができたため、それぞれの園児に合わせた保育ができ、安心、安定感をもって生活していた。3歳以上児クラスは一人ひとりの個性を受け止め、チーム保育を行うことで、細やかな援助をすることができ、それが活動の基礎となった。 |             |
|       | 主体的な活動を促す環境の工夫をする                                                                                                                                      | 5           |
|       | →生活面では園児が自ら生活を進められるような環境の工夫があった。(当番活動、朝の身支度、食事の支度、身の回りの整理など)                                                                                           |             |
|       | 自発的な活動としての遊びを通して指導を行う                                                                                                                                  | 4           |
|       | →各クラスで環境の見直しや工夫をし、主体的な活動ができるよう取り組みを進めている。行事やカリキュラム上で保育者主導になってしまう活動があり、見直しや工夫が必要。                                                                       |             |
|       | 園児一人ひとりの特性や発達に応じた指導を行う                                                                                                                                 | 5           |
|       | →園児一人ひとりの特性や発達について担当者で共通理解をし、発達に合わせた活動に取り組んだ。特に3歳以上児クラスは集団の活動にうまく加われない場合にも適切なフォローをすることができていた。                                                          |             |
|       | 活動によって幼保連携型認定こども園教育保育要領に示されている3つの資質・能力が育まれている                                                                                                          | 4           |
|       | →様々な活動を通して「知識及び技能の基礎」を培い、それを試す、工夫する、表現する力は育まれてきた。さらにそれを応用したり、自ら意欲的に生活を進めていく工夫も必要。                                                                      |             |
|       | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識し、教育・保育にあたっている                                                                                                                     | 4           |
|       | →3歳以上児クラスは週案で活動のねらいとして記載したので、教育・保育において意識的な関わりができたように思われる。様々な活動により、さらにバランスよく育ちを意識できるよう、活動に取り入れていきたい。                                                    |             |
|       | 小学校との連絡会に参加し、小学校教育と円滑な接続ができるように情報交換をしている                                                                                                               | 3           |
|       | →連絡会には参加し、園児の情報伝達や接続に関する話し合いなどはできている。コロナ禍で、実際の交流やこまめな情報交換はできなかった部分もあった。                                                                                |             |
| 健康支援  | 学校保健計画に沿った保健活動を行う                                                                                                                                      | 4           |
|       | →学校保健計画に沿った活動を進めることができた。園児が健康に関心をもつことのできる取り組みをさらに深めていけるとよいと思う。                                                                                         |             |
|       | 園児の機嫌や食欲、顔色を観察し、平常とは異なった状態かどうか注意を払っている                                                                                                                 | 5           |
|       | →登園時の健康チェックや家庭との情報交換などで園児の体調を把握し、異常に早く気づくことができていた。                                                                                                     |             |
|       | 体調不良や怪我が発生した場合、保護者に園児の状況を連絡し、適切な対応をとっている                                                                                                               | 5           |
|       | →速やかな保護者への連絡と必要であれば医療機関への受診など、職員間で連携をとり、適切な対応をとることができた。                                                                                                |             |
|       | 園児の成育歴や罹患歴、予防接種状況などの情報を把握している                                                                                                                          | 5           |
|       | →保護者からの情報を取りまとめ、情報の把握を行っている。                                                                                                                           |             |
|       | 保健だよりにて情報発信をしている                                                                                                                                       | 4           |
|       | →必要に応じて、保健だよりを作成し情報発信をしている。来年度はさらに内容の工夫をし、マンネリ化しないようにしていけるとよい。                                                                                         |             |
|       | 感染症に対して感染症情報を保護者に伝え、感染症予防に努めている                                                                                                                        | 3           |
|       | →メールや掲示にて情報を伝えているが、連絡の入った時間帯やタイミングにより連絡が遅くなることもあるので、速やかにお知らせできるようにする。                                                                                  |             |
|       | 感染症の疑いのある園児に対し、他児と接触しないようにするなど適切な処置、対応をしている                                                                                                            | 5           |
|       | →疑わしい症状がみられた場合には素早く別室にて保育をする対応をとっている。                                                                                                                  |             |
|       | 睡眠チェックを年齢に合わせて必ず行い、SIDSの危険因子が無いようにしている                                                                                                                 | 5           |
|       | →3歳未満児クラスはチェック表を用いて睡眠中の様子を観察、記録した。                                                                                                                     |             |
|       | AEDの使い方も含めた心肺蘇生法について職員全員が理解できるようにしている                                                                                                                  | 5           |
|       | →実物を使用して訓練を行った。緊急時に備え、繰り返し訓練できる機会を設けていく必要がある。                                                                                                          |             |
| 食育    | 食育計画に沿って園児が食への興味や関心を高めることができるような活動や関わりをしている                                                                                                            | 4           |
|       | →栄養士を中心に食育計画に合わせた活動を行い、園児の食への興味や関心を高めることができた。保育教諭と栄養士が連携し、さらに活動を深めること、つながりあるものにすることができるとよい。                                                            |             |
|       | 安全、安心な給食やおやつを提供をしている                                                                                                                                   | 4           |
|       | →材料を選び抜き、安心安全なものを提供できた。                                                                                                                                |             |
|       | 旬の食材を使用したり、行事食を取り入れたりするなど季節を感じられるような献立作成をしている                                                                                                          | 5           |
|       | →栄養士が創意工夫をして献立作成しており、園児も楽しみにしている。法人内の栄養士間で情報共有し、知識や技術の向上に努めている。                                                                                        |             |
|       | 栄養だよりにて情報発信をしている                                                                                                                                       | 5           |
|       | →給食だよりを毎月発行し、写真等も交えながら給食に関する情報を発信していた。園の内容だけに限らず、食についてより幅広い情報を提供できるようにさらに工夫をしていきたい。                                                                    |             |
|       | 食物アレルギー対応を適切にしている                                                                                                                                      | 5           |
|       | →栄養士と保育教諭が連携し、間違えのない提供ができていた。                                                                                                                          |             |
|       | 離乳食は家庭と情報交換をし、一人ひとりに合わせた献立を作成し、提供している                                                                                                                  | 5           |
|       | →食材チェック表や保護者との情報交換を基に一人ひとりに合わせた献立作成や形状での提供ができた。                                                                                                        |             |

|                             |                                                                                                   |   |
|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 環境・衛生管理                     | 室内の換気を適宜行い、室温、湿度や明るさ、音の大きさなど園児が心地よく過ごせる環境を整えている                                                   | 4 |
|                             | →こまめに換気を行うと共に、室温計を確認し調整をした。特に夏場は園児の健康面を考え、設定温度を調整する必要があるので、気をつけていく。                               |   |
|                             | 嘔吐物、排泄物の処理に当たっては感染防止のための処理を徹底している                                                                 | 5 |
|                             | →研修の内容に従って正しい処理をすることができた。                                                                         |   |
|                             | 衛生的な空間で園児が生活できるよう、丁寧な清掃を行っている                                                                     | 4 |
|                             | →こまめな清掃を心掛け、衛生的な環境を整備できた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、消毒や手洗い、うがいの徹底を図った。                                    |   |
|                             | 調乳や園児の食事介助の際には、手洗いや備品の消毒をするなど衛生面の配慮をしている                                                          | 5 |
|                             | →特に食事の前には、手洗いや消毒など衛生面の配慮は徹底できている。                                                                 |   |
| 災害への備え                      | 学校安全計画・危険等発生時対処要領に基づき、災害等の発生に備えるとともに、防火設備、避難経路等の安全点検を定期的に行っている                                    | 5 |
|                             | →設備や経路の点検は行い、その都度、必要な対策をとるように努めている。棚やピアノ等、大事故に繋がるような物の転倒防止の対策は行っている。                              |   |
|                             | 危険等発生時対処要領に基づき、緊急時の対応の具体的内容、手順、職員役割分担について確認をしている                                                  | 3 |
|                             | →確認はしているものの、危険等発生時対処要領については、もう少し理解を深めたり、熟知できるような工夫や確認が必要。                                         |   |
|                             | 毎月1回、避難訓練及び消火器訓練を行い、反省をして改善点について検討している                                                            | 5 |
|                             | →毎月の避難訓練により、緊急時の対応について確認できている。消火器訓練も毎月行い、非常時に備えることができている。                                         |   |
|                             | 災害発生時の保護者への連絡、子どもの引き渡しを円滑に行えるよう体制や手順を決め、引き渡し訓練で確認をしている                                            | 5 |
|                             | →引き渡し訓練では保護者の方のご協力をいただき、手順や役割分担などを確認できた。よりスムーズな引き渡しができるように取り組んでいく。                                |   |
|                             | 防災備蓄を用意し、保存期間の確認、必要に応じた入れ替えを行っている                                                                 | 4 |
|                             | →定期的に確認をし、入れ替えや必要物品の追加を行っている。まだ不十分なものもあるので、徐々に整備していく。                                             |   |
|                             | 園児の人数確認を定期的に行い、所在把握をしている                                                                          | 5 |
|                             | →登園時、活動前、活動後、給食、午睡、保育短時間終了時刻など生活の節目の時間には必ず人数確認を行っている。                                             |   |
| 事故防止                        | 遊具や玩具の安全点検を定期的に行っている                                                                              | 5 |
|                             | →室内の玩具は各担任が、園庭遊具は担当者が定期的に安全点検を行った。また、園児が遊ぶ前にも各保育教諭が目視確認していく。                                      |   |
|                             | 園外での活動に際して、事前に危険箇所を把握し、安全に活動できるようにしている                                                            | 4 |
|                             | →園児が遊ぶ前に目視はしているが、ベンチにとげが出ていたり、園児が遊ぶ場所に枝がでていたり危険箇所の把握が十分ではないこともあった。                                |   |
|                             | 日常的な事故予防として、ヒヤリハットを収集、分析し、事故予防対策に活用している                                                           | 4 |
|                             | →事故後の分析、全職員への周知を行い、予防対策に活用した。前年度に比べて増えたもののヒヤリハットの収集には毎月ムラがあるので、事故予防という観点からより多くの情報収集ができるようにしていきたい。 |   |
|                             | 不審者の対応など危機管理について職員で周知している                                                                         | 4 |
|                             | →園内研修を行い、マニュアルに基づき役割分担等を確認した。実技も行ったが、様々なシチュエーションの中で実際に動いてみると訓練を重ねる必要があると感じたので、繰り返し訓練を行う必要がある。     |   |
|                             | 睡眠、水遊び、食事等の重大事故が発生しやすい場面について、マニュアルに基づきその場面に応じた適切な対応を行っている                                         | 5 |
|                             | →対応について再度見直し、マニュアルの内容が周知徹底できるようにした。いつ事故が起こるかわからないので、引き続き事故予防に努める。                                 |   |
| 子育て支援の                      | 保護者が積極的に半日保育体験に参加していただけるよう文書や掲示等で促している                                                            |   |
|                             | →コロナ禍で実施できなかった。令和5年度より再開予定。                                                                       |   |
|                             | 保護者からの相談に対してはプライバシーの保護や守秘義務を守り、親身に耳を傾ける態度で対応する                                                    | 5 |
|                             | →必要に応じて立ち話ではなく、面談の時間をつくるなど話を聞くことのできる体制をつくり、親身に対応する姿勢をとった。                                         |   |
|                             | 状況に応じて内部の体制をとったり、外部機関との連携をとり、適切な家庭支援を行う                                                           | 5 |
|                             | →状況に応じて外部機関と連携をとり、適切な関わりができるようにしていった。                                                             |   |
|                             | 地域における子育て家庭の保護者等に対する支援を適切に実施している(育児相談・園庭開放・子育て情報誌)                                                | 3 |
|                             | →園庭開放にて家庭間交流が見られたり、一時預かり利用に繋がったりし、保護者に対する支援にも繋がった。コロナ禍で利用人数は少なかった。                                |   |
| 職員<br>の<br>資<br>質<br>向<br>上 | 内部研修を計画的に行い、職員が共通認識の下で教育・保育にあたることができるようにする                                                        | 4 |
|                             | →内部研修での話し合いや考察等により、さらに教育・保育の質の向上につなげることができた。法人で外部講師による職員研修を行い、共通認識の下、資質向上を図った。                    |   |
|                             | キャリアアップを含む様々な内容の外部研修に参加できるよう職員体制を整え、資質向上に努める                                                      | 4 |
|                             | →外部研修には多く参加することができたが、それを十分に園内に浸透できなかったこと、保育体制をより整えていくことが課題である。                                    |   |